

令和元年度 社会福祉法人あぶくま福祉会

共同生活援助事業所グループホームスクラム事業報告

1. 概 要

利用者の人権を尊重し地域の中で生活していくための社会性の向上と自立性を高め、地域社会の一員として生活していけるよう支援し、地域福祉の向上の増進に努めてきた。

また、日中の就労又は就労継続支援等のサービスを利用している障がい者に対し、地域生活を営む住居において、日常生活上の相談、介護等のサービスを提供し、日常生活全般において支援を行ってきた。

2. 利用者の状況（令和2年3月31日現在） 定員7名 男性7名（前年 5名）

市町村	男性
伊達市	4名
桑折町	1名
福島市	1名
本宮市	1名
合 計	7名

年齢/性別	男性
20歳代	3名
30歳代	
40歳代	1名
50歳代	3名
合 計	7名

3. 稼働日数および利用人数

年間稼働日数 362日 延べ利用人数 1,822人 1日平均利用者数 5.0人
(前年 365日 1,759人 4.9人)

月	稼働日数	利用者延人数	月	稼働日数	利用者延人数
4月	30日	107人	10月	27日	135人
5月	31日	126人	11月	30日	162人
6月	30日	153人	12月	31日	176人
7月	31日	161人	1月	31日	167人
8月	31日	138人	2月	29日	167人
9月	30日	144人	3月	31日	186人

4. 職員の状況

施設長1名 管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員8名（兼務正職員1名、パート2名 シルバー5名） 世話人8名（兼務正職員1名、パート2名 シルバー5名） 夜勤者4名（パート2名、シルバー2名）

5. 支援報告

(1) 生活支援の実施状況

地域に根差した福祉サービスの向上に努め、利用者の個々のニーズに応じた支援と利用者の考えを重んじた支援にあたった。共同生活の中で築くルールを守り、

利用者同士協調した生活を営むよう指導した。地域社会の一員であることを常に自覚し、地元の町内会に所属し、町内行事に参加した社会的自立を目指した支援を行った。

(2) 健康及び安全対策

利用者の健康を守るため、日々の手洗いうがいの励行、給食支援におけるバランスの取れた献立編成で、衛生面と食育栄養の観点から健康管理を行った。特に年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策では、毎日の検温、手洗いうがい、消毒、マスク着用、外出自粛を働きかけ、集団感染予防に努めた。

また、当地は水害発生リスクが高い地域にあり、水害をはじめ、火災、地震に備え、毎月避難訓練を行い、災害に備えた。昨年秋の台風19号水害に際し、利用者を避難所に移動させ、避難支援を行った。(床下浸水被害)

6. 職員研修

福祉サービスにあたる職員として、また、地域社会の一員としての高い自覚をもって地域サービスの一翼を担う職員としての意識を高めるよう努めてきた。

(1) 人権擁護研修

利用者の人権を守るため、当施設職員を対象に人権擁護研修会を実施し、利用者への虐待防止、人権を守る重要性を研修した。

(2) 各種福祉業務研修

県、県社協主催グループホーム職員研修に職員を派遣した。

7. 公益的取り組み状況

地域住民との積極的な交流を図るため、町内会に加入し、地域の清掃活動、町内会行事等に参加した。

8. 令和元年度の主な活動・行事

月	行 事
4月	8日外食体験(お寿司) 21日町内クリーン作戦参加(公益的事業)
5月	15日外食体験(ラーメン)
6月	13日外食体験(牛丼)
7月	7日クリーンアップ作戦参加(公益的事業) 9日外食体験(とんかつ)
8月	21日外食体験(牛丼)
10月	台風19号水害被災(床下浸水)
11月	22日あぶくま福祉会創立30周年記念式典・祝賀会(スカイパレス) 28日職員向け人権擁護研修
12月	クリスマス食事会
1月	お正月食事会
毎月	避難訓練(火災8回 地震2回 水害2回)
毎日	給食提供(朝食、夕食)、送迎車運行、部屋・浴室掃除、洗濯